

“Workshop on All-Hazards Approach (AHA) : potentials, challenges, and emerging risks”を開催しました (2021/11/17-18)

テーマ：APRU、Multi-Hazards
 会場：災害科学国際研究所（仙台市）

11月17-18日に“Workshop on All-Hazards Approach: potentials, challenges, and emerging risks”を当研究所で開催し、外部から7名が対面で参加しました（熊本大学、京都大学、国際斜面災害研究機構、慶應義塾大学、高知県立大学、東京大学、三菱商事インシュアランス）。また、今村文彦当研究所所長からもご挨拶をいただきました。

「仙台防災枠組」は、自然災害のみならず、オールハザードを対象とすることが明記されていますが、「オールハザード」の定義は様々です。2020年に国連防災機関が出版した「Hazard Definition and Classification Review」では、302のハザードがリストアップされています。これら全てのハザードを対象とすることは不可能ですが、防災や災害対応・復興の過程で共通項を見つけ、「オールハザードアプローチ」に関する共通の定義・提案を行うことを目指しています。ワークショップでは、オールハザードに関するこれまでの文献整理をし、またオールハザードに含まれるべきハザードとして、NATECH（自然災害起因の産業災害）、Health、COVID-19、原子力災害、複合災害などに関する研究結果を参加者がそれぞれ発表しました。

また、17日の午後には海外の参加者とオンラインでつなぎ、UNDRR（国連防災機関）、UNESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会）、ADPC（アジア災害準備センター）などの機関の代表者が、オールハザードに関する幅広い知見やアイデアを、それぞれの立場から共有いただきました。

- All-Hazards Approach (AHA) and Sendai framework
 (Mr. Marco Toscano-Rivalta, UNDRR Regional Office for Asia & the Pacific)
- All-Hazards risk assessment (Dr. Sanjay Srivastava, UNESCAP)
- Regional governance and AHA (Dr. Aslam Perwaiz, ADPC)
- The private sector and AHA (Ms. Antonia Loyzaga, Manila Observatory)
- AHA from the CSOs perspectives (Dr. Manu Gupta, ADRRN)
- WHO's initiative to AHA
 (Prof. Emily Chan, The Chinese University of Hong Kong)
- Case studies from Malaysia (Dr. Shohei Matsuura, UTM)
- Case studies from Indonesia (Dr. Fara Mulyasari, Universitas Pertamina)

今後もこのテーマに関する議論を続け、2022年には論文としてまとめ、発表したいと考えています。

